

【質問への回答】令和6年度生涯学習関係事業報告書(令和7年3月31日現在)

資料 1

シート	連番	事業名	担当課	質問内容	質問への回答
3-2	143	情報インフラの整備	情報推進課	公共施設21施設、どの施設が対象なのか、どこを対象にして今100%、それ以外の部分について今後どうされようとしているのかを伺いたと思います。	R7.1.31時点で、公衆無線LANの設置施設は、久喜市役所(本庁舎)、第二庁舎、各行政センター(3か所)、各コミュニティセンター(10か所)、ふれあいセンター久喜、しょうぶ会館、菖蒲運動公園(管理棟)、栗橋保健センター、中央保健センター、子どもの遊び場の21か所です。 その他に指定管理者が設置している施設もございます。 公衆無線LANの設置にあたっては、「久喜市公共無線LAN整備指針」(令和4年9月27日市長決裁)の規定に基づき、情報推進課と施設所管課の協議により決めることとされております。アクセスポイントの増設にあたっては多額の費用を伴うものでございますので、①利用目的、②特定の個人・団体ではない多くの施設利用者の要望、③年間を通じての利用か、④継続的な利用か、⑤費用対効果、⑥施設管理者の有無(無人管理施設は不可)等の観点で検討を進めるべきものと考えております。
1-1	4	久喜市つどいの広場「きらきら」	子育て支援課	講習会4回の開催場所について、お尋ねします。	久喜市つどいの広場「きらきら」(久喜小学校内の学童保育施設)において開催しました。
1-3	61	交通安全の街頭啓発活動	交通住宅課	市メール配信サービスを実施する事になった理由について詳しく知りたいです。	これまでは、全国交通安全(交通事故防止)運動に併せ、各地区(4地区)で年4回、啓発活動を実施していましたが、啓発品の配布による啓発効果は限定的であることや、関係する団体(PTAの解散など)等の負担が時勢に合わなくなっていたところでした。 このようなことを踏まえ、本啓発活動については、全国交通安全運動(春・秋)に併せて実施することに改めるとともに、新たに市のメール配信サービスを活用した周知を実施するものです。
1-3	73	農業体験、料理教室等の開催	農業振興課	廃止になった理由は、参加人数が少なかったことでしょうか？	本事業は、菜園教室や学童農園の実施を通じて、当初の目的である農業や農村に対する理解を深めることができ、一定の成果が得られたため廃止することとなりました。また、本事業において指導員としてご協力いただいていた方が高齢となり、継続的な派遣が困難となったことも要因の一つに挙げられます。
3-2	149	公民館事業の充実	生涯学習課	事業中止の事由は、人数や日程なののでしょうか？	久喜中央地区:「久喜中央地区市民体育祭」は雨によるグラウンドコンディション不良のため中止 江面地区:「スマホ教室」は最少開催人数を下回ったため、中止 久喜東地区:「寄せ植え教室」は大雪の降雪が予想されたため、中止 青葉地区及び菖蒲地区:「体育祭」は衆議院選挙会場となったため中止

【質問への回答】令和6年度生涯学習関係事業報告書(令和7年3月31日現在)

シート	連番	事業名	担当課	質問内容	質問への回答
1-1	20	青少年教育の充実	生涯学習課	二十歳の成人式実行委員会「以外」ではなく、この実行委員会自体を二十歳の成人式セレモニーの登壇や代表者の言葉、記念撮影だけで終わらせてはおいしい、もったいない。現在18歳から大人(成人)としてここに暮らしのあるまちづくりの意思表示として選挙投票がある。本実行委員会は18歳を超え19歳と20歳の方々と構成されている。いわゆる青少年から青年となる方々。またその多くは久喜市の中学校の卒業生がほとんどである事実から、積極的に実行委員として活動・活躍頂ける能動的な方々であり、幸せな未来をつくるその主体性をもっとふるさと久喜市の少ないとされる若い世代の「市民参加」へといかすために「市民生活課と生涯学習課や各中学校での組織横断」で協働することが出来ないか伺う。「つなぐ二十歳の再会」に至る数年前の中学生から地元や近隣の高校生へと学びながら「郷土愛の礎」をつなげ、いかし、支え合う生涯学習として「青年教育・青年活動の推進の充実に関する機会」の学校教育や家庭教育以外の社会教育の学ぶ、つなぐ、いかす、支え合うふるさと久喜市、未来の当事者意識醸成を育み、ひいては「若者たちの声を社会の真ん中へ届ける」ための人生のライフイベントを若者同士青年世代同級生で共有し市民参画へつなげるための「具体例」となるイメージをいくつかあげながら生涯学習に参画する中学から子育て世代ど真ん中となる40歳までの「青年教育・青年活動の推進」についての取り組みにつなげる為の可能性ついてや、そのほかのいわゆる十歳の成人式実行委員会「以外」の手段も含め伺う。	令和6年度では、市民生活課の「若い世代と市長との座談会」の参加者募集のため、二十歳の成人式実行委員会委嘱式で担当職員から実行委員に参加を呼びかけました。この事例のように、関係課と連携し、実行委員に各種事業の周知を実施しておりますが、原則として二十歳の成人式実行委員には、式典運営への協力をお願いしていることから、実行委員であることをもって「市民参加」事業への出席や参加等を依頼するつもりはありません。 また、本事業は「生涯学習施設」を活用した青少年教育について検討、充実を図ることを目的とした事業です。活用の例として、二十歳の成人式実行委員会のほかに、子ども大学くきやGoogleジュニアICTリーダー育成講座などの会場として活用されています。 ご質問の「青年教育・青年活動の推進」については、他市町村の取り組みを参考に、生涯学習施設で実現可能かどうか検討していきます。
2-1	86	認知症サポーター養成講座	高齢者福祉課	①「課題・今後の対策」欄にある『実際身近な人が認知症になったときに【後悔しないよう】とあるが『後悔をしてしまっている』実例を教えてください。 また、元気な高齢者の集まりの団体に 声をかけるとどのような「後悔」を避けられるとお考えか簡単な例を教えてください。 ②「課題・今後の対策」欄にある『小・中・高校生やその父兄の方々にもお時間を作っていただき、認知症を理解し、その対応の仕方を学んでいただけるよう学校にも声をかけていきたい…』と 今後の対策にありますが、「積極的に受けていただける」広報等でのPR するための工夫と、学校にも声かけされるにあたり弊害や課題があれば教えてください。	①実例 ・何度も同じことを聞くので、何回も同じことを言わなければならず、イライラした対応をしてしまった。 ・何もわからないと思って本人ができるであろうことまですべて手を出してしまった。 ・認知症になった本人が一番困っているのに理解してあげられなかった。 高齢者の集まりに声をかけることで、今まで一緒に活動していた方が認知症になっても、認知症を正しく理解していることにより、閉じこもりの生活にならないよう、今までどおり声をかけたり、一緒に活動に参加したり、相談や受診ができていたのかなど、家族とのつながりなどの知っている情報をもとに見守ることや、早期発見・早期受診などの支援ができ、「あのときこうしていれば…」といった後悔を避けられると思います。 ②PRの工夫、課題 認知症は誰もがなりうる病気です。近所に認知症の方が住んでいるかもしれないし、言葉を交わすこともあると思います。子どもの時から認知症という病気を正しく知って、声かけなどの対応を学んでいただきたい。いずれ、子どもの親や、親の親(祖父母)が認知症になっても相談場所や対応の仕方を学んでいることで適切な介護や支援ができるようになって考えています。 【工夫】 ・目に留まるようオレンジ色でチラシを作成。 【課題】 ・学校行事が年間で決まっているため、講座実施が難しいことがあります。子どもの他、保護者の集まる機会なども対象に出前講座案内もしていますが、日程を合わせることが難しいです。 ・社会福祉協議会に認知症サポーター養成講座を委託しており、社会福祉協議会で学校に案内をしていますが、この他にも様々な講座の案内があり、認知症サポーター養成講座が選ばれないこともあります。学校によっては、毎年、カリキュラムに入れているところもあります。

【質問への回答】令和6年度生涯学習関係事業報告書(令和7年3月31日現在)

シート	連番	事業名	担当課	質問内容	質問への回答
2-2	98	菖蒲産業祭	商工観光課	「内容」にある誘いの場を提供します。とあるが生涯学習活動への『誘いの場』へ誘うのは、具体的に「誰」ですか。また、誘いの「場の提供」の具体的な「場」をお聞かせください。	各会場に設けられたステージ等で、市民が日頃の学びの成果として、楽器演奏やダンスなどを披露しています。これらの発表場が、「誘いの場」となり、来場者にとって新たな学びのきっかけになると考えております。
2-2	99	わしのみやコスモスフェスタ	商工観光課		
2-2	101	赤花そば栗橋やさしさときめき祭り	栗橋行政センター 地域振興係		
2-3	116	学校応援団コーディネーター研修会	指導課	「今後の対策」にあるコーディネーター間での情報交換を図る取組について、具体的な時期や方法を伺います。	現在、地域学校協働活動推進員に学校応援団コーディネーターをお願いしていることから、推進員を対象に年に1回、生涯学習課で研修会を実施しています。 令和7年度では、令和7年5月27日(火)の地域学校協働活動推進員委嘱式にあわせて研修会を開催し、中学校区ごとに推進員を集めて情報交換会を実施しました。
3-1	129	市民参加の推進	市民生活課	市民の参加を推進します。とある一方で「若い世代の参加が少ない」と評価されていますが、2012年から13年間続けてきた中での「若い世代の参加が少ない理由」をお聞かせください。	広報紙やホームページ、SNS等を通じて幅広い年齢層に情報を発信し、市政への関心を高めていただく取り組みを進めております。しかしながら、市政に参加する方法について若い世代に十分に届いていない可能性があります。今後も若い世代が積極的に市政に参加できるよう、啓発方法について検討する必要があります。また、若い世代は仕事と家庭の両立等、時間の制約があるため、審議会のオンラインでの開催等、今後若い世代がさらに市民参加しやすい環境を整えることが重要であると認識しております。
4-3	199	PTA活動の充実	生涯学習課	「PTA活動の活性化」を生涯学習関係事業内容としながら、内容と相反する今後PTAの「廃止等を示すPTAもあり」とあるが、会員である「教職員」へ必要な「十分な理解」を担当課として「理解」を得るために何をしますか。また、会員である「保護者」に対して担当課として「合意」を得る機会の創出を促すために何をしますか。	PTA活動の充実、望ましいPTA活動が保証され、充実していくものと考えています。生涯学習課としては、任意の社会教育団体である各校PTAが、自分たちの活動が適切に行われているのを振り返る機会を設けていただき、久喜市PTA連合会を通して、各校PTAの活動が行われ、「合意」が得られるような体制をつくっていただけるよう説明してまいります。さらに、家庭教育学級を効果的に活用していただけるよう説明してまいります。
4-3	203	コミュニティ協議会運営事業	市民生活課	内容にある「財政的支援」の具体例を教えてください。年間の事業・運営費の「予算・決算」におけるにおける会員負担「会費」と「補助金」の構成比率に目安や留意点があれば教えてください。また「事務的支援」とはなんですか。今後の対策として「感染症対策を含めた課題を共有」とあるが、わかりやすく教えてください。	・「財政的支援」とは、具体的には補助金の交付を行っております。コミュニティ推進協議会へは各250,000円、地区コミュニティ協議会へは各200,000円の交付を行っております。 ・「会費」と「補助金」の構成比率ですが、特に目安や留意点はございません。 ・「事務的支援」とは、市で事務局を担っているコミュニティ推進協議会の会議資料の作成や各会議や研修の日程調整等を行っております。 ・「感染症対策を含めた課題を共有」とは、コロナ期間に人との関わりが減少し、地域との繋がりが減少した経験から、地域コミュニティづくりの目的や必要性、今後同様な感染症の流行があった場合でも、地域との繋がりを継続できるよう、感染症対策等の課題を改めて共有し、コミュニティの組織化を強化する必要があるという内容になります。